

# 2015年3月期 決算説明会

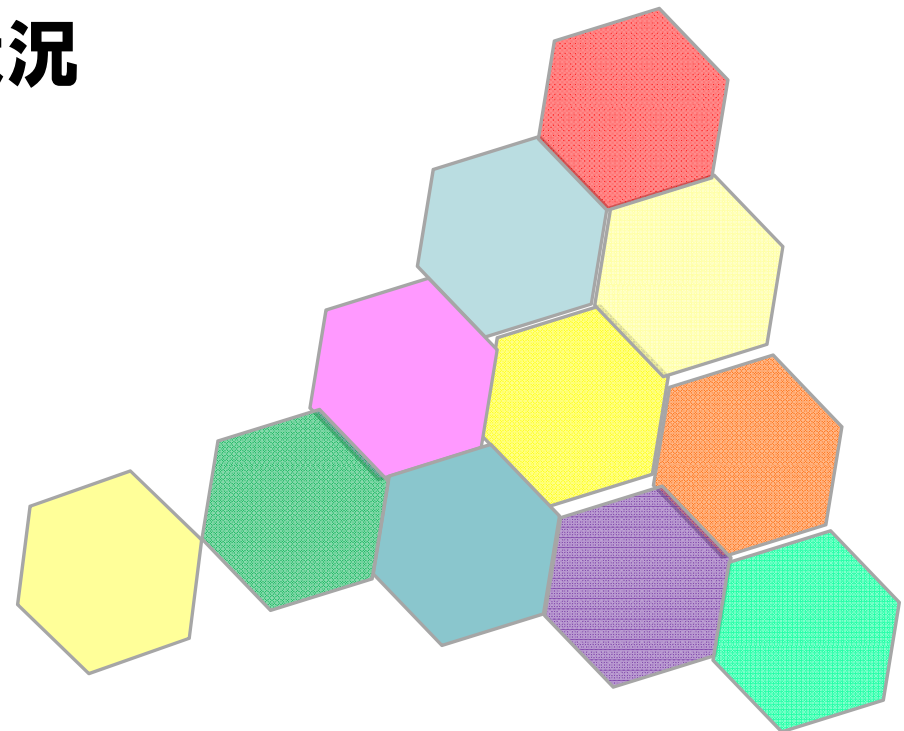
テクノホライゾン・ホールディングス株式会社

代表取締役社長 野村 拓伸

# 目次

---

- I. テクノホライゾングループについて
- II. 2015年3月期 通期決算概況
- III. 2016年3月期 通期業績予想
- IV. 事業構造改革の進捗状況



# I. テクノホライゾン（Technohorizon） グループについて

## テクノホライゾン・ホールディングス（会社概要）

社名 (英文名)	テクノホライゾン・ホールディングス株式会社 (TECHNO HORIZON HOLDINGS CO., LTD.)
設立年月日	2010年4月1日
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>傘下の事業会社の経営管理</li><li>子会社の事業内容は「光学事業」と「電子事業」</li></ul>
所在地	愛知県名古屋市南区千竈通二丁目13番地1
代表者	代表取締役社長 野村 拡伸
資本金	2,500百万円(2015年3月末現在)
グループ従業員総数	1,147名(2015年3月末現在連結ベース)

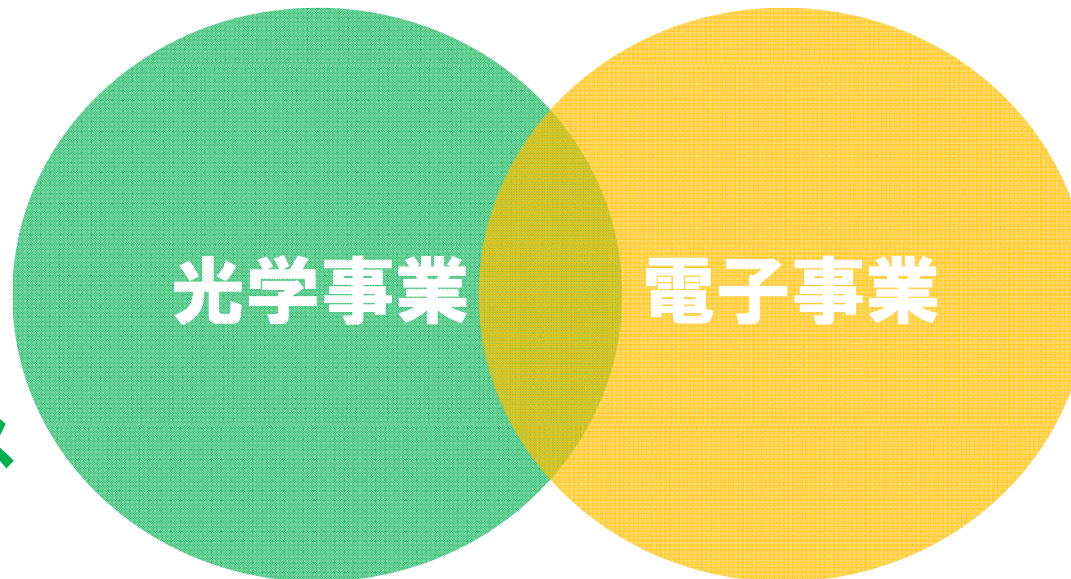
## テクノホライゾン・ホールディングス（設立経緯）

---

オプト・エレクトロニクス技術と強いマーケティング力  
をもってグローバルな事業展開を推進すべく  
JASDAQ上場2社が2010年に経営統合

エルモ社

SUWA  
オプトロニクス



タイテック

ファインフィット  
デザイン

中日電子

グラフィン

## テクノホライゾン グループ経営理念

---

- ◆ **オプト・エレクトロニクス技術**  
を核にグローバルな『人と社会』に貢献する
- ◆ **知恵とアイデアと積極果敢さ**  
に溢れた事業展開を追求する
- ◆ 『**技術を活かすこと**』  
『**皆さまのお役に立つこと**』  
という姿勢を貫き、着実に前進する

# 光学事業 (1)

## (株)エルモ社

各種映像機器の開発・製造・販売を行っており、  
教育・オフィス市場で知名度高く書画カメラを中心にして  
CRS(クラスルームソリューション)を推進

書画カメラ



教室用無線アクセスポイント



電子黒板



ホール用映像  
制御システム



モバイル  
プロジェクター



監視カメラ



超広角デジタル  
ムービーカメラ



ホームセキュリティ  
クラウドカメラ





## 光学事業 (2)

### (株)SUWAオプトロニクス

光学用金型・プラスチック成形から  
レンズ・光学ユニットまで  
開発から製造まで一貫して対応

3D計測用  
光学ユニット



プロジェクター  
光学ユニット



医療内視鏡用  
光源ユニット



ヘッドアップ  
ディスプレイ







## 電子事業 (2)

### (株)ファインフィットデザイン

多彩な電子製品開発技術に裏打ちされた  
コア技術の展開で情報通信機器事業に注力

ドライブレコーダー



デジタルタコグラフ



ポイント・決済端末機



IPカメラドアホン



POSオーダーシステム



バックモニター一体型ドライブレコーダー

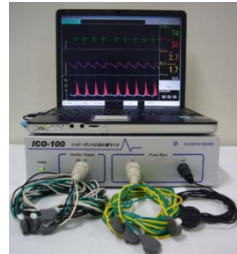


## 電子事業 (3)

### (株)中日電子

得意技術である「生体情報の取得技術」を活用した  
医療機器の開発・製造・販売

インピーダンス心拍出量モニタ



組織酸素代謝モニタ



画像圧縮・伝送技術の開発・製造・販売

デジタル自主放送システム



医療用録画システム



## 電子事業 (4)

### (株)グラフィン

生産現場の検査等で活用される高速画像  
インターフェイスボード検査装置の開発・販売

画像処理計測用  
インターフェイスボード



携帯電話・スマートフォン用  
カメラユニット検査装置



## **II. 2015年3月期 通期決算概況**

## 2015年3月期 通期決算 ハイライト (1)

- 【売上高】 大量生産体制から高付加価値へシフトにより売上は減少  
 【営業利益】 利益率の改善に加え、経費削減も進み黒字に転換  
 【経常利益】 営業外収益(為替差益)231百万円計上
- すべての項目で黒字化
  - 「継続企業の前提に関する重要事象等」の記載は解消

グループ連結 (単位:百万円)	通期実績	前期実績	前期増減
売上高	21,379	23,481	△9.0%
営業利益	72	△1,908	—
経常利益	315	△1,289	—
当期純利益	120	△3,401	—



## 2015年3月期 通期決算 ハイライト (2)

### 【事業セグメント別】

#### 【光学事業】

- ・ 大量生産体制から「多品種・高品質・高付加価値」へ転換
- ・ 米国書画カメラ販売は下げ止まり感、ドイツ等欧州が堅調
- ・ クラウドカメラ等の新製品の開発を推進
- ・ コスト大幅削減や利益率改善
- ・ 下期にプロジェクター事業等で取引先の撤退に伴い在庫整理損を計上し赤字

事業別売上高 (単位:百万円)		上半期 実績	下半期 実績	通期実績	前年同期 実績	前期増減
光学事業	売上高	6,251	6,621	12,873	15,298	△15.9%
	営業利益	73	△132	△59	△2,222	—

注: 事業セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費等を除外しております。



## 2015年3月期 通期決算 ハイライト (3)

### 【事業セグメント別】

#### 【電子事業】

- FA関連機器が、国内景況感の回復と新興国の旺盛な需要に基づき、機械メーカーからの受注が堅調で売上増加
- FA中国現地法人も日系企業との取引に加え、現地企業との取引も増加
- 携帯電話／スマートフォン用カメラモジュール検査装置が投入スケジュールの後ろ倒し等もあり当初計画を下回る
- 下期に開発やマーケティング投資も積極的に行った結果減益

事業別売上高 (単位:百万円)		上半期 実績	下半期 実績	通期実績	前年同期 実績	前期増減
電子事業	売上高	3,739	4,765	8,505	8,183	3.9%
	営業利益	115	△17	98	437	△77.6%

注:事業セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費等を除外しております。

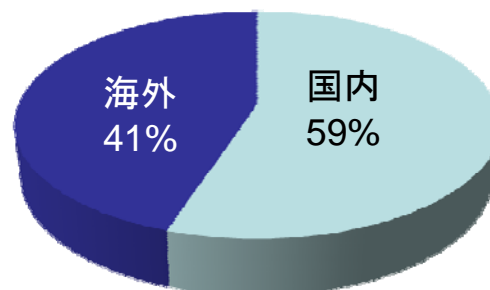
# 2015年3月期 通期決算 ハイライト (4)

## 【国内外販売比率】

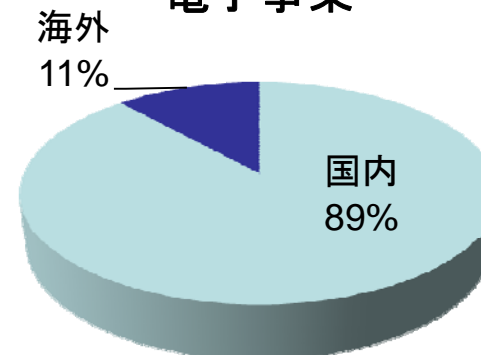
(単位:百万円)

事業セグメント	地域別売上高	通期実績	前期実績	コメント
光学事業	国内	7,082	8,412	低採算製品の減少により売上は減少
	海外	5,791	6,886	
電子事業	国内	7,508	7,212	国内・海外ともにFA中心に増加
	海外	997	971	

光学事業



電子事業



## **III. 2016年3月期 通期業績予想**

## 2016年3月期 通期業績予想

(単位:百万円)	2016年3月期	2015年3月期	前期増減
売上高	21,500	21,379	0.6 %
営業利益	250	72	243.6 %
経常利益	150	315	△52.5 %
当期純利益	50	120	△58.4 %

### 【今期の重点施策】

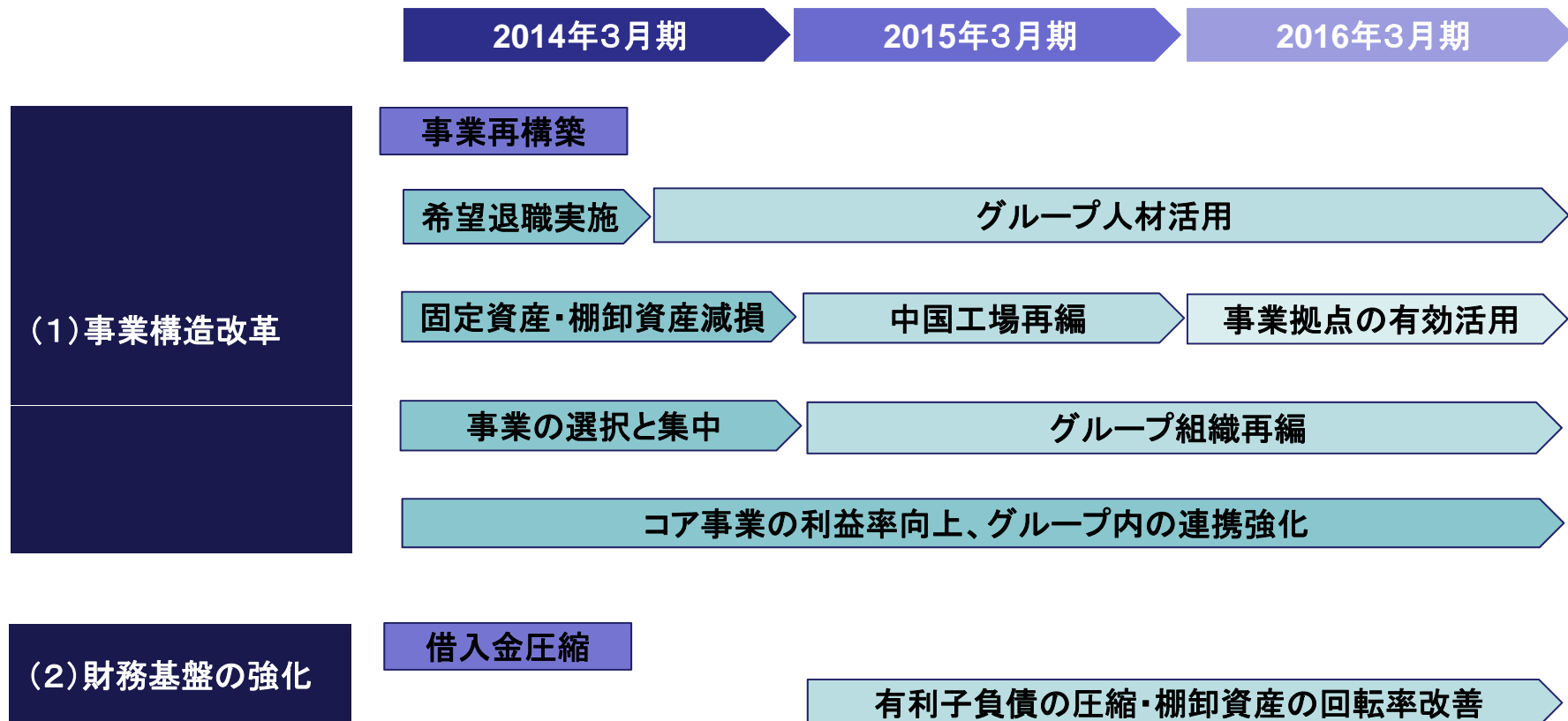
「教育」「FA」「医療」「安全・余暇」の4つの市場分野を重点戦略として、攻めの事業展開を加速

- ・高付加価値商品展開による目標利益の達成
- ・高収益化を追求できる財務体質への変革
- ・事業別・市場別事業育成シナリオの精査と構築
- ・経営インフラ(ITインフラ、業務プロセス、内部統制他)の再構築による経営効率化
- ・シンプルで活動しやすいグループ構成へ再編

## **IV. 事業構造改革の進捗状況**

# (1) 構造改革の進捗状況

- ・ 光学事業は「大量生産」から脱却し、「利益率の高い事業」へ転換
- ・ 「成長と構造改革の両立」をはかる取組みは、道筋を示すことができた

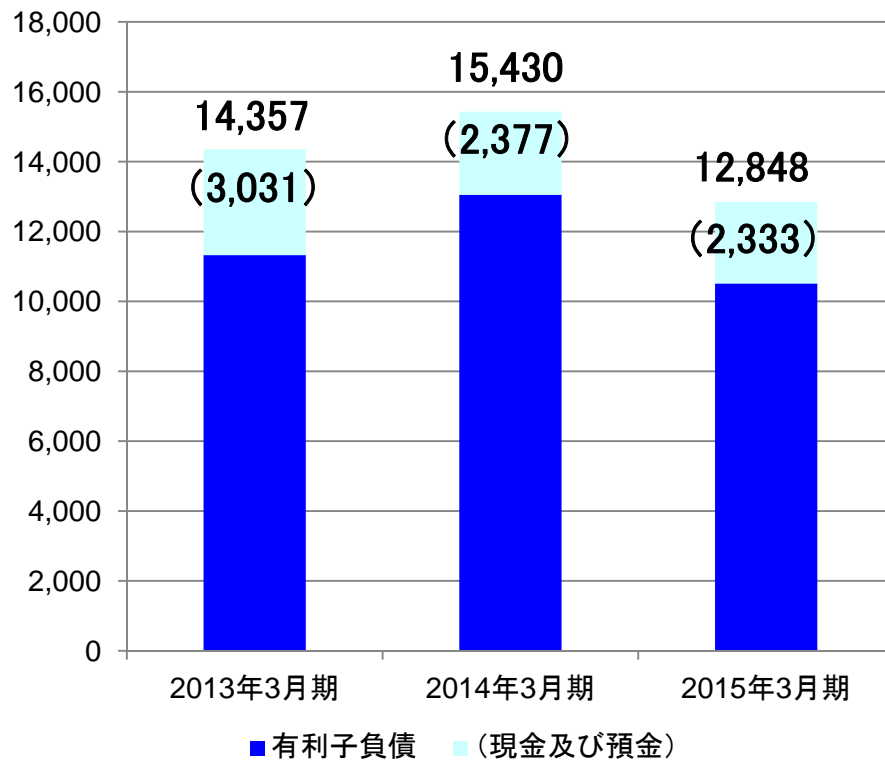


## (2)財務体質の改善状況

純有利子負債は、前期末に比べ2,582百万円減  
自己資本比率は、4.8%上昇

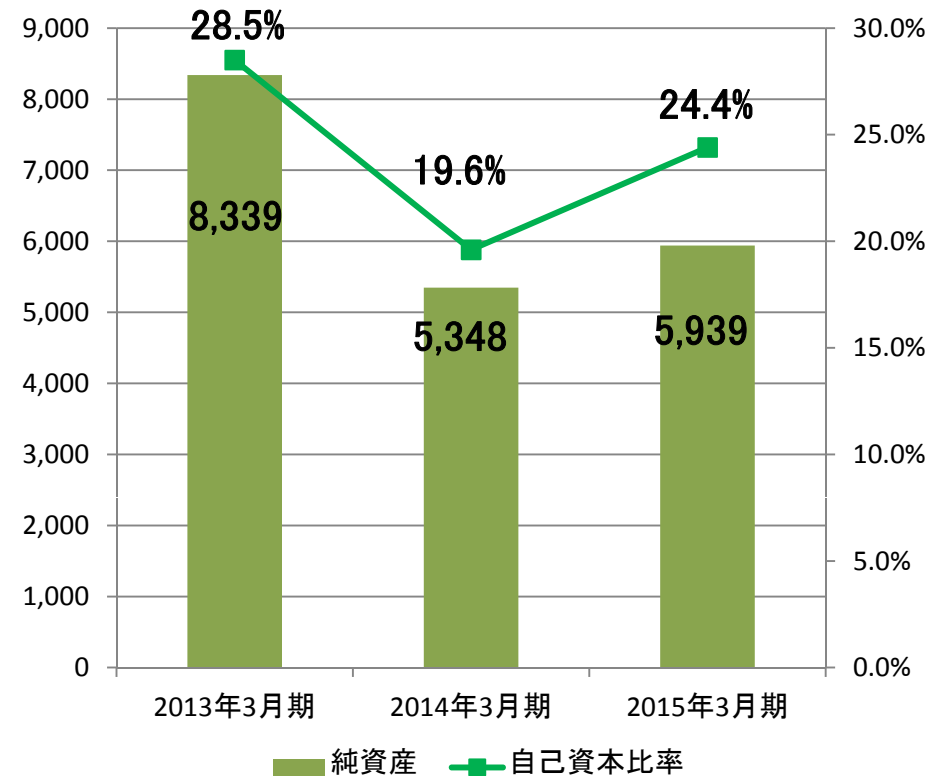
### ①有利子負債の状況

(有利子負債残高:百万円)



### ②純資産の状況

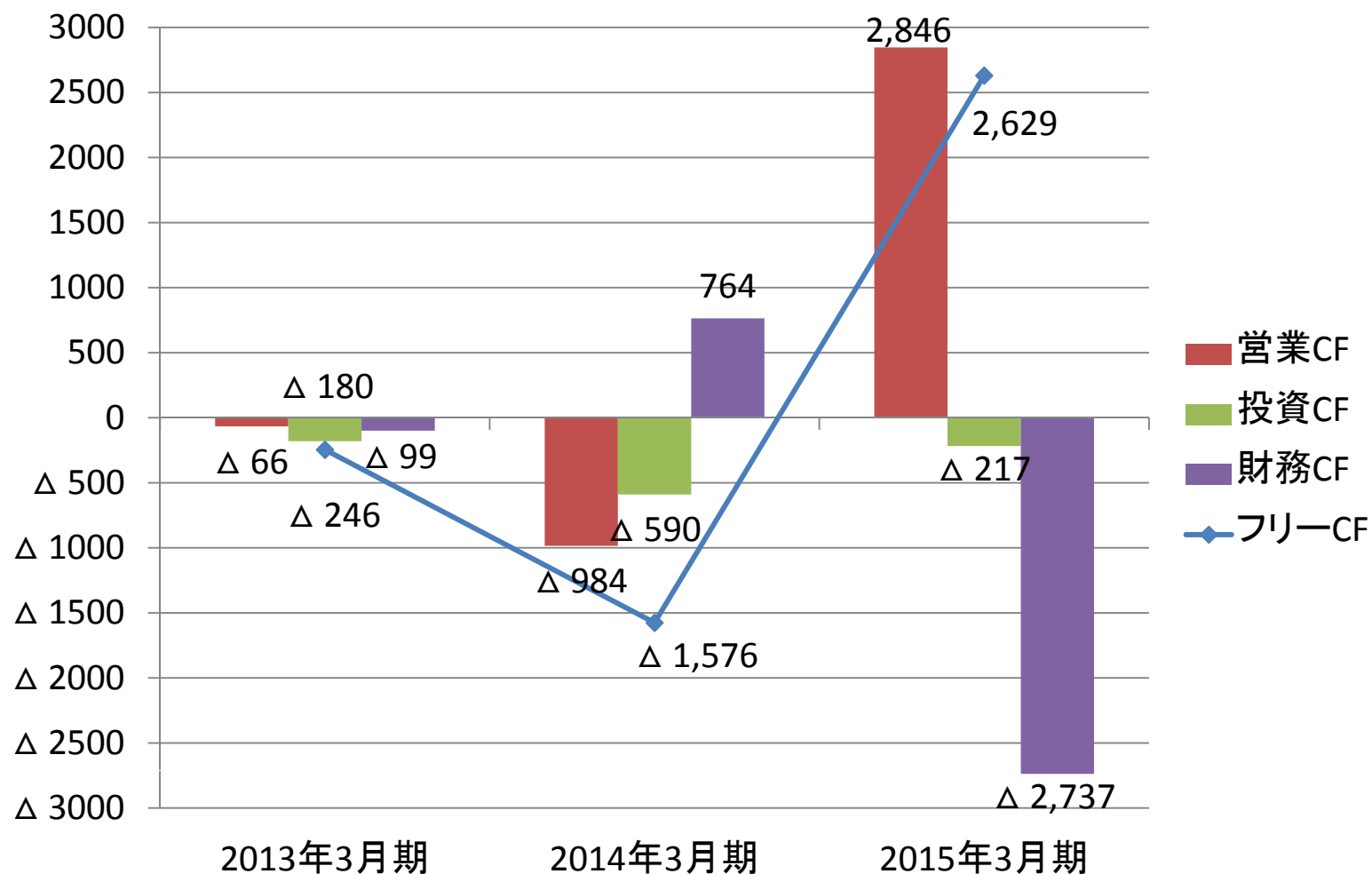
(純資産:百万円)



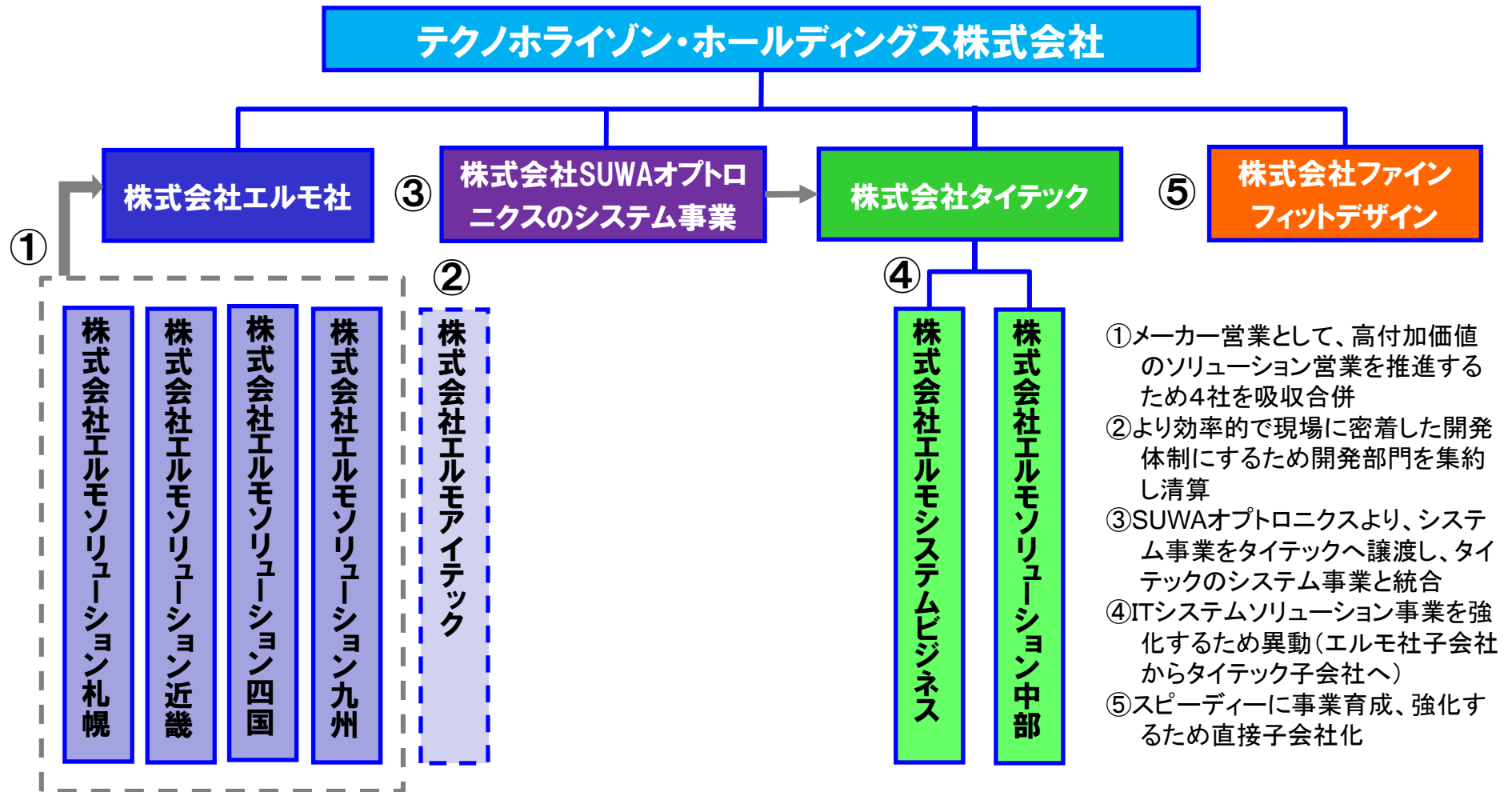


## (3) キャッシュフローの改善状況

利益率や棚卸資産回転率の改善により営業CFは前期比3,831百万円改善  
借入金の返済を積極的に実施



## (4)グループ組織再編

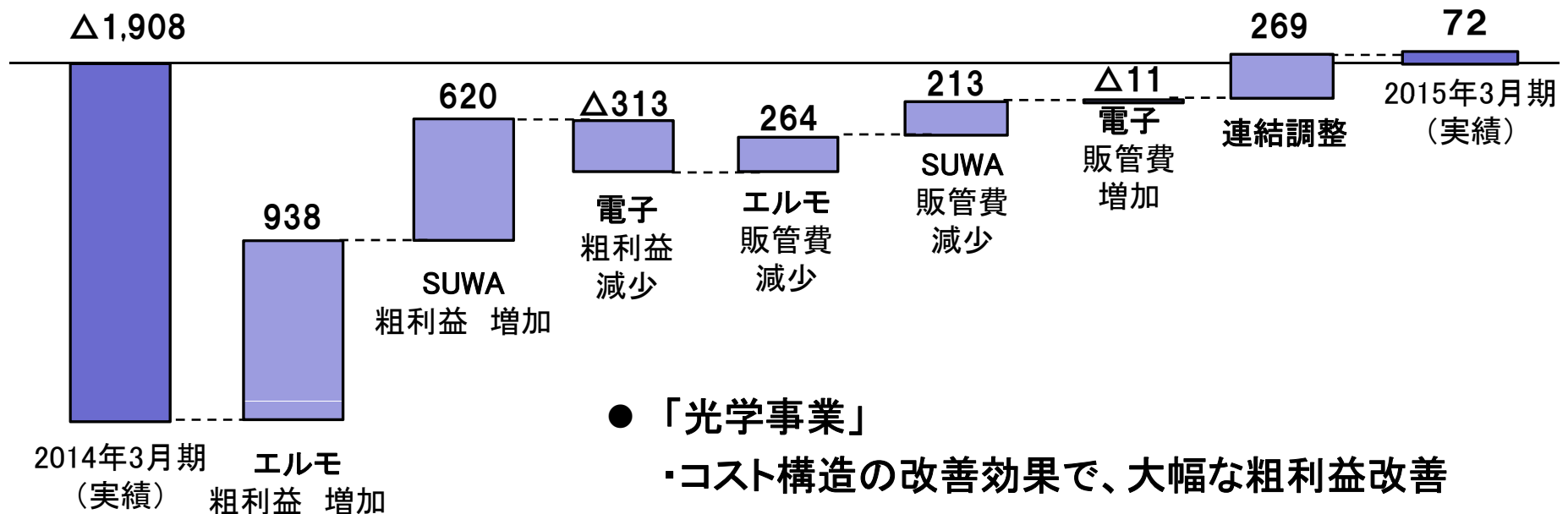


※今回の再編に関係ない子会社は省略しております。

全体的には資金効率の向上と費用低減するとともに経営判断のスピードアップが図れる

## (5) 営業利益改善状況

(単位:百万円)



- 「光学事業」
  - ・コスト構造の改善効果で、大幅な粗利益改善
  - ・販管費削減も実現できた
- 「電子事業」
  - ・開発投資が先行して粗利益悪化
  - ・マーケティング費用もかさみ販管費増

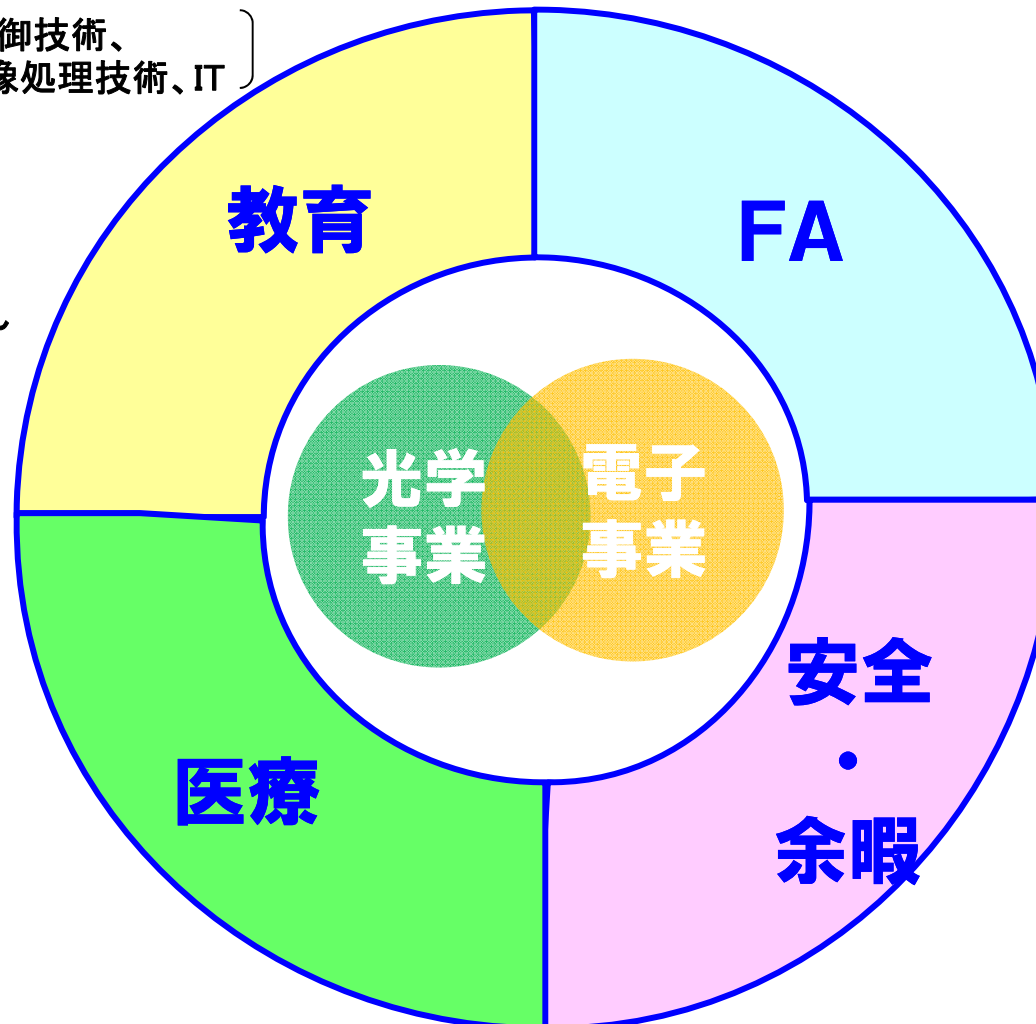
## (6)成長戦略

- 今後成長が4つの市場に向けて事業育成
- 光学・電子の技術を融合させていく

〔カメラ技術、制御技術、  
光学技術、画像処理技術、IT〕

・教育のIT化など  
さらなる高度化が  
世界的に推進され  
ていく

・医療の高度化は  
ますます求められ  
ていく




・中国を中心とした  
ものづくりの為の  
自動化設備の  
ニーズは高まって  
いく


・セキュリティや  
自動車などの  
マーケットはさらに  
進化し広がっていく

## (6)成長戦略：「教育市場」


- クラスルームソリューションのグローバル展開
  - ・日本、米国、欧州に続きアジアでもシェアを拡大させる
- 教室ネットワーク環境及び多機器間の連携に必要なとされるソリューション製品開発
  - ・タブレット、IT化に向けて機器、ソリューションの強化




電子黒板



無線アクセスポイント



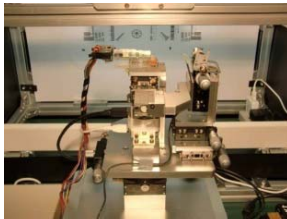
ホール用映像制御システム



書画カメラ

## (6)成長戦略：「FA市場」

### ■ 多軸ユニット及びロボットコントローラの 拡販による国内外のシェア拡大



アライメント(位置調整)  
装置



画像処理カメラ

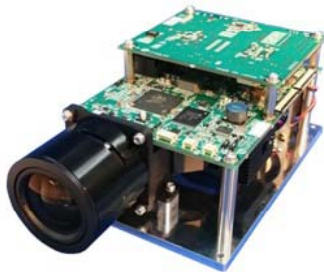


ロボットコントローラ



工場イメージ

### ■ 画像装置の育成及びシステム事業の育成



3D計測用  
プロジェクター



顕微鏡用WiFiカメラ



カメラモジュール  
製造・検査装置

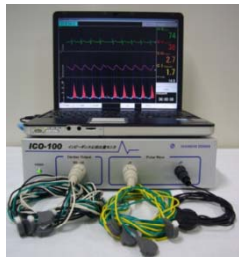


工場ITシステム構築支援サービス



## (6)成長戦略：「医療市場」

- 医療機器技術を新規顧客に提供しEMSで業績拡大を図る



インピーダンス  
心拍量モニタ



組織酸素代謝  
モニタ



生体情報モニタ



エコー画像記録装置



病院イメージ

- 他社とのアライアンス強化



喉頭鏡



医療ファイバースコープ  
光源ユニット



水素ガス発生装置

※当機器は医療機器ではありません。 29



## (6)成長戦略：「安全・余暇市場」

### ■ 監視等用途に合わせた最適なカメラ・映像システムの開発

(イメージ図)



ホームセキュリティ  
クラウドカメラ



フィールドカメラ



列車用ネットワークカメラ



IPカメラドアホン



デジタル自主放送システム

### ■ 自動車運転支援・自動車安全装置の育成



安全運転支援装置研究向け  
映像ロガー



自動車用ヘッドアップディスプレイ

### ■ デジタコ・バックモニター付きドライブレコーダーなど運輸市場の業務改善のための新商品の開発



MFIB(マルチ・ファンクション・  
インターフェース・ボックス)



ドライブレコーダー



バックモニター一体型  
ドライブレコーダー



ポイント・決済端末機

## (6)成長戦略：新規顧客の獲得・マーケティングの強化

開催日	開催場所	展示会名
2014年6月	東京ファッションタウンビル	教育関係者向け「New Education Expo 2014」(東京)
2014年6月	大阪マーチャンダイズ・マート	教育関係者向け「New Education Expo 2014」(大阪)
2014年6月	東京ビッグサイト	第18回 機械要素技術展 M-Tech
2014年10月	京都テルサ	第40回全日本教育工学研究協議会全国大会
2014年12月	パシフィコ横浜	国際画像機器展2014
2014年12月	株式会社エルモ社	テクニカルソリューションフェア2015 in 名古屋
2015年1月	東京ビッグサイト	オートモーティブワールド2015
2015年2月	インテックス大阪	第5回関西医療機器開発・製造展(MEDIX関西)
2015年2月	東京都立産業貿易センター	テクニカルソリューションフェア2015 in 東京
2015年3月	東京ビッグサイト	第23回セキュリティ・安全管理総合展
2015年3月	中国・広州	広州国際航業次号化技術及び装備展覧会
2015年4月	東京ビッグサイト	光・レーザー技術展 Photonix2015
2015年5月	東京ビッグサイト	第6回教育ITソリューションEXPO
2015年5月	パシフィコ横浜	人とくるまのテクノロジー展

## IR担当窓口

- 部署：テクノホライゾン・ホールディングス株式会社
- 役職：総務部長
- 氏名：加藤 靖博
- 電話：052-823-8551
- FAX：052-823-8560
- E-mail： [info@technohorizon.co.jp](mailto:info@technohorizon.co.jp)

## 将来見通しに関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保障を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。